

史料紹介

禅林寺蔵
『往生講私記』

笹田教彰

『往生講私記』なる書物自体は、現在、八種類ほどの写本が確認されているが、『国書総目録』による、それぞれの内容の異同に関しては明らかにされていないようである。

京都東山禅林寺蔵の『往生講私記』は、『国書総目録』には記載されていないが、後述する極書には「永観律師真筆 往生講一卷」と記されており、その内容は永観の『往生講式』である。ただし、すでに活字化されている『往生講式』（浄金卷十五・正藏卷八十四）の本文と比較した場合、若干の異同が認められるので、ここに紹介し翻刻することにした。

書 誌

所蔵者 京都市左京区永観堂 禅林寺

外題 なし

題策 なし

装丁 卷子本・一軸

書写 室町時代から江戸時代初期と推定

行数 本文二〇八行、奥書三行、本文一行三字×二

十一字

軸 あり

内題 なし

本文 漢文。片仮名で振り仮名、送り仮名が付され、訓点も付されている。

箱 蓋の表に「永観律師経巻」と墨書された題策が貼付されている。

奥付の部分には、本文と別筆で、

京都市下京区室町通四条南入

寄附 河野 興 助

昭和三十年十二月二十日 京都市養福寺檀家

と記されており、昭和三十年に寄贈されていることが窺える。

また本巻物には、巻物一軸とは別に二・三の書付が添付されている。その一つはいわゆる「極書」である。

その始めに、

永観律師巻極

東山禅林寺永観堂開山永観律師真筆

往生講一卷 古筆了雪極札 一

式百九行有名 朝倉茂入極札 一

と記されており、つづいて朝倉茂入と古筆了雪の極書（短冊形の小紙片二種で筆が異なり、始めの部分とも別筆である。印があるので恐らく原本であると思われる。）が貼付されている。つづいて始めの部分と同筆で、

東山禅林寺是空和尚添状

永観律師巻物 往生講

永観律師 天永二年辛卯寂

寛政十年に六百八十八年に成

と記されている。従ってこの極書は寛政十年（一七九八）に作成されたことが窺える。（なおこの極書の包紙には「湯沢勘解由様 古筆了^祐□」と記されており、寛政十年当時のこの巻物の所有者と極書の作成者とが窺えるが、両者については未詳）朝倉茂入（道順）は、江戸時代初期の代表的な古筆鑑

定家で、古筆家の始祖とされる古筆了佐（一五七二—一六六二）の弟子である。その極書に「永観堂開山永観律師巻物」と記されていることから、本巻物は、江戸初期にはすでに卷子本の装丁をとっていたようである。また古筆了雪に関しては、生没年を含めて未詳であるが、古筆家自体は了佐のあと、家を継いだ四男了栄（宗家）と三男一村（別家）に分家し、両家ともに三代目から江戸へ移り、ともに江戸幕府に仕えたとされている。そして了雪の極書の署名にも「江戸古筆了雪極」と記されていることから、了雪自身は古筆家の江戸移住後の子孫（庶流）にあたるのではないかと思われる。

朝倉・古筆両鑑定家の極書に加えて、本巻物には禅林寺是空和尚の添状（鑑定書）が添付されていたようである。（ただし、現在ではこの添状は見当たらない。）『禅林寺誌』によると、禅林寺の第四十六世に是空回隆なる上人がおり、貞享二年（一六八五）から元禄三年（一六九〇）まで禅林寺に在住したという。従って、これが同一人物であるとすると、添状の記されたおおよその時期が窺えよう。

また本巻物には、明治十六年に田中忠次郎なる人物へ本巻物が譲られた時の証文と、本巻物が殊のほか珍しいものなので、是非購入してほしいという、西村庄兵衛なる人物へあてた文書（本巻本と直接関係のない記述が大半をしめるので翻刻は差し控えた）とが添えられている。これらの文書から本巻物は永観律師の真筆として珍重され、江戸時代以降古筆収集家の間を点々としていったのではないかと思われる。

『往生講私記』の内容に関してであるが、本文は若干の脱字が認められるものの、永観の『往生講式』とはほぼ同文である。今、浄土宗全書所収本（以下、浄全本と略す）と比較すると、『往生講私記』は、浄全本の冒頭から歌頌・着座・法用・表白までに該当する部分を欠いている。ただし、浄全本には記載されていない「勧誦」の部分の内容を補うことができる。また浄全本の「講演」中、第六因円果満門末部には、歌頌が四偈しかないが（他の門はすべて八偈である）、『往生講私記』には八偈記されており、浄全本が欠落であるとするならば、それを補うこと

ができる。また末部の廻向文も浄全本と異なっている。

このような特徴を有する『往生講私記』は、基本的には『往生講式』の中核をなす部分の抄出とも考えられよう。しかしながら講式の式次第でもある『往生講式』との関係については、『往生講私記』の方がより古い形態を残しているとみることができのかどうかという点をも含めて、この一本の内容からにわかに判定することは難かしい。今後現存する種々の『往生講私記』の本文との比較検討をおこない再考することにした。

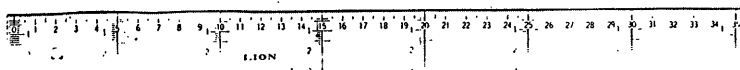
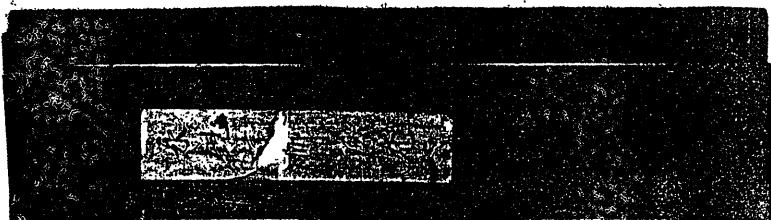
最後に、本書は、坪井俊映教授が禅林寺へ赴かれて、珍海撰の『決定往生集』とともに写真撮影してこられた資料である。本書の撮影・翻刻を快諾下さった禅林寺の御高配、ならびに翻刻の御指導を賜った坪井俊映教授の御厚情に対し、ここに記して謝意を表するものである。

凡 例

一、翻刻はできるかぎり原本に忠実であるように努めた。ただし漢字は現行の字体に改めた。

一、改行ならびに本文中の空白部分は原本のままにし
便宜上五単位の行数を施した。

一、振り仮名、送り仮名は判読不明のもの以外は、で
きるかぎり原本のとおりであるように努めたが、
訓点に関しては、ニ・ミ・下 などが省略されている
ため、私に補った。



次秋分 次勸誦
 至勸誦時 專法家似 志在聖教 見音響 聲聲
 九品蓮臺 清淨宛 身如蓮葉 隨風生 光輝 玉蕊隨風
 還念 分程來 敬向 證知 龍城 講壇 聖心 懺悔 不離
 三業 而造 古昔 罪 今對 三寶 十方 佛 背 逆 發 露 悔 罪
 至心 仰 令 佛 代 僧 受 持 善 障 聚 戒 新 舊 惡 善 展 死 生
 生 之 世 之 功 敬 禮 願 我 生 之 見 諸 似 世 恒 國 珍 池 苑
 恆 修 不 退 善 障 仍 疾 護 身 之 善 體 護 持 之 功 成 善 障
 今 此 講 演 略 有 七 月 一 發 善 根 心 門 二 懺 悔 業 障
 門 三 隨 喜 善 根 門 四 令 佛 住 門 五 諸 歡 極 樂 門
 六 目 圓 果 滿 門 七 迴 向 功 德 門
 第一 發 善 根 心 有 欲 住 淨 土 義 道 父 非 木 石
 好 自 發 心 支 發 善 根 者 須 現 流 未 生 死 所 謂 相
 懷 無 始 以 來 輪 迴 六 衰 倘 受 諸 苦 哉 咄 嗟 幾 大

次神分 次勸請

5 至心勸請釈迦尊 法界緣起諸聖教 觀音勢至諸薩捶
九品蓮台清淨衆 身子迦葉諸賢聖 梵釈四王諸護法
還念本誓來影向 証知証誠講演事 至心懺悔無始來
三業所造無量罪 今對三宝十方前 皆悉發露盡懺悔

至心帰命仏法僧 受持菩薩三聚戒 斷惑修善度衆生
生々世々無數礼 願我生々見諸仏 世々恒聞弥陀教
恒修不退菩薩行 疾証無上大菩提 護持大衆成善願
今此講演略有七門一 發菩提心門二懺悔業障

10 門三隨喜善根門四念仏往生門五讚嘆極樂門
六因陀果滿門七 回廻功德門

第一發菩提心者欲往淨土一必發道心一人非土木一
好自發心夫發菩提心者須觀流來生死所謂想
像無始以來輪廻六趣備受諸苦或咽焦熱大

15 焦熱之災或閉紅蓮大紅蓮之水或沈餓鬼
飢饉之愁或值畜生殘害之悲人間八苦天上五
衰怨輪廻之間受三如是苦幾乎是由下為一旦名

20 利恣作衆罪也今度若不厭當來亦可悲而
求名利者今生猶不安嚴寒凌冰日夜經營
炎天拭汗東西馳走適有一復小一有付憂無
付憂身心劬勞無有安時何況朝開榮花暮
隨無常之風宵一翫朗月一曉隱別離之雲一生

25 是風前之燭万事皆春夜之夢豈只安然眼
床上乎無常忽至何得逃焉主君不資親昵
不替消北邙露之暮徒送野外昇東望雲
之朝空訪亡室然獄率將去道流淚獨行魔
王呵責之庭屈膝孤悲哀哉再歸三途之故

30 鄉一重受惡趣之苦果不如早厭一生之名利一偏
期一菩提之妙果若得自厭悲他未厭今求淨
土只為衆生是為菩提心初之初今一念菩提
心之宝珠已繫第八頼耶之衣裏斯實長夜

之明珠淨土之玄軌也抑一花開者天下皆春
一發心者法界悉道身雖二人身一心同仏心既發
難發之道心盡往易往之淨土弥陀本願云十

35

方衆生^ヲ發^テ善^ニ提^ヲ心^ヲ欲^ス生^ム我^ニ國^ニ臨^ニ命^ヲ終^ノ時^ニ不^レ現^ス
其^ノ前^ニ不^レ取^リ正^ニ覺^ヲ上^ニ云^ハ是^レ故^ニ終^ニ焉^ノ之^ノ暮^ニ欲^ス預^ニ彌^ヲ陀^ヲ引^ク
接^ニ各^ヲ發^テ堅^ニ固^ノ道^ヲ心^ヲ讚^ス嘆^ス善^ニ提^ヲ心^ヲ一^ニ礼^ス拜^ス彌^ヲ陀^ヲ仏^ヲ一^ニ矣^ハ
歌頌曰

40

菩薩於生死 最初發心時 一向求菩提 堅固不可動
彼一念功德 深広無涯際 如來分別說 窮劫不能尽
願共諸衆生往生安樂國

南無西方極樂化主阿彌陀仏

45

第二懺悔業障者前 發^ス善^ニ提^ヲ心^ヲ次^ニ懺^ス悔^ス業^ヲ障^ヲ夫^レ
人^ノ之^ノ在^ル世^ニ誰^カ畏^ル罪^ヲ業^ヲ不^レ知^リ後^ニ世^ニ恚^ヲ作^ス罪^ヲ尤^ニ惡^シ
樂^ヲ集^メ引^ク經^ヲ云^ハ人^ノ經^ル一^ニ日^ニ一^ニ夜^ニ有^リ二^ニ八^ニ億^ニ四^ニ千^ニ念^ニ一^ニ念^ニ起^ル
惡^ヲ得^ス二^ニ一^ニ惡^ニ身^ニ十^ニ念^ニ發^ス惡^ヲ受^ス三^ニ十^ニ生^ニ惡^ニ身^ニ乃^チ至^ス千^ニ萬^ニ
念^モ亦^ナ文^ヲ如^ク是^レ一^ニ日^ニ惡^ニ念^ニ之^ノ報^ヲ受^ス尽^ス尚^モ難^シ況^ハ一^ニ生^ニ
之^ノ間^ニ惡^ニ業^ヲ乎^ヤ何^ニ況^ハ無^キ始^ヲ已^ニ來^ニ惡^ニ業^ヲ乎^ヤ悲^シ哉^ハ未^ダ來^ニ
無^キ窮^ニ生^ニ死^ニ出^テ離^レ何^ニ時^ニ哉^ハ幸^ニ今^ニ值^フ二^ニ大^ニ乘^ニ懺^ス悔^ス法^ヲ一^ニ
始^メ自^ラ無^キ始^ヲ罪^ヲ障^ヲ皆^ヲ悉^ク可^ク懺^ス悔^ス但^{シテ}業^ヲ障^ヲ年^ヲ深^ニ懺^ス悔^ス
日^ヲ淺^ニ各^ヲ三^ニ業^ニ運^テ誠^ヲ修^ス事^ヲ理^ヲ懺^ス悔^ス先^ニ事^ヲ懺^ス悔^ス者^ハ五

50

體^ヲ投^テ地^ニ遍^ニ身^ニ流^シ汗^ヲ發^ス露^ヲ涕^ヲ泣^シ懺^ス悔^ス罪^ヲ障^ヲ也^ハ次^ニ理^ス
懺^ス悔^ス者^ハ一^ニ切^ニ業^ヲ障^ヲ皆^ヲ妄^ニ想^ヲ生^ス自^ラ性^ヲ空^ニ也^ハ自^ラ性^ヲ空^ニ故^ニ
本^ハ不^レ生^ス也^ハ作^ス此^ニ觀^ヲ時^ニ妄^ニ想^ヲ夢^ヲ覺^ス生^ス死^ス本^ハ無^キ衆^ヲ罪^ヲ
露^ヲ消^ス輪^ヲ迴^ス爰^ニ絶^ス頓^ニ証^ス菩^ヲ提^ヲ道^ヲ無^シ如^ク三^ニ斯^ニ觀^ニ門^ニ但^{シテ}事^ヲ理^ス
懺^ス悔^ス不^レ堪^ハ者^ハ一^ニ心^ニ念^ス二^ニ彌^ヲ陀^ヲ仏^ヲ一^ニ念^ニ之^ノ間^ニ能^ク滅^ス二^ニ八^ニ十^ニ
億^ニ劫^ニ生^ス死^ス之^ノ罪^ヲ何^ニ況^ハ念^ス乎^ヤ是^レ故^ニ常^ニ念^ス二^ニ彌^ヲ陀^ヲ者^ハ
恒^ニ修^ス懺^ス悔^ス一^ニ人^ニ也^ハ今^ニ以^テ此^ニ等^ニ懺^ス悔^ス力^ヲ一^ニ始^メ自^ラ二^ニ弟^ニ子^ニ罪^ヲ障^ヲ乃^チ
至^ス一^ニ切^ニ有^リ情^ヲ業^ヲ障^ヲ皆^ヲ悉^ク懺^ス悔^ス仍^モ各^ヲ發^ス二^ニ勇^ニ猛^ニ懺^ス悔^ス
心^ニ懺^ス悔^ス罪^ヲ障^ヲ一^ニ礼^ス拜^ス彌^ヲ陀^ヲ仏^ヲ一^ニ矣^ハ歌頌曰

55

一切業障海 皆從妄想生 若欲懺悔者 端坐思冥想
衆罪如霜露 惠日能消除 是故應至心 懺悔六情根
願共諸衆生往生安樂國

60

第三隨喜善根者 既懺^ス悔^ス罪^ヲ障^ヲ次^ニ隨^フ二^ニ喜^ニ善^ニ根^ニ一^ニ謂^フ
無^キ始^ヲ已^ニ來^ニ應^ニ離^レ之^ノ生^ス死^ス不^レ離^ス雖^モ悲^シ無^キ量^ニ億^ニ劫^ニ難^シレ^テ遇^フ
之^ノ聖^ヲ教^ヲ得^テ遇^フ是^レ喜^ニ適^ニ遇^フ二^ニ仏^ニ教^ニ一^ニ必^ズ由^テ二^ニ宿^ニ善^ニ一^ニ若^シ宿^ニ福^ニ
薄^シ者^ハ仏^ノ法^ヲ流^シ布^ス之^ノ世^ニ尚^モ不^レ得^テ生^ス何^ニ況^ハ輒^ニ得^テ受^テ持^ス

65

南無西方極樂化主阿彌陀仏

讀誦^{スルコトヲ}一 乎故念^ニ仏三昧經云若有^ニ善男子善女人一聞^ニ此念^ニ仏三昧名^ヲ者^ハ當^レ知^ル彼人非^ニ唯^ニ三三四五如來所^ニ種^ニ諸善根^ヲ既^ニ於無量阿僧祇^ニ許如來所^ニ種^ニ諸善根^ヲ而獲^レ聞^ニ此三昧王名字^ヲ何^ニ況受持^{シテ}誦^{シテ}如^レ法修行^ス略^{シテ}我等^ハ思^フ往昔結緣^ニ宿善如^ニ恒沙^ニ妄^ニ輕^ニ自身^ヲ心^ハ不^レ怯弱^ニ值^ニ甚難^ニ值^ニ之教^ヲ信^ス極難^ニ信^ニ之法^ヲ自^リ非^ニ久殖^ニ勝因^ヲ由^ニ何忽值^ニ此之緣^ニ愚^ニ哉^ニ具^ニ恒沙宿善^ヲ之身被^レ拘^ニ一旦名利^ヲ又還^ニ三途^ニ之旧里^ニ更^ニ經^ニ多百千劫^ヲ積善^ヲ余慶幸得^ニ人身^ヲ若^レ如^レ教修行^ス若^レ如^レ法隨喜^ス現身^ニ何^ニ不^レ發^ニ三昧^ヲ哉臨終^ニ何^ニ不^レ見^ニ如^レ來^ヲ哉其時^ニ歡喜幾^ニ許是^ニ故始^ニ自^リ弟子宿善^ヲ乃至^ニ一切有情^ノ之漏無漏^ヲ善根皆悉隨喜^ス仍^レ各^ニ以^テ大隨喜心^ヲ讚^{シテ}嘆^{シテ}善根^ヲ禮^ニ拜^ス彌陀^ヲ矣歌頌曰

南無西方極樂化主阿彌陀仏

若人無善本 不得聞此經 清淨有戒者 乃獲聞正法
曾更見世尊 則能信此事 謙敬聞奉行 踊躍大歡喜
願共諸衆生 往生安樂國

第四念^ニ仏往生門^ヲ者凡茲講^ノ之興^ヲ志^ヲ在此門^ニ事是至要^{ナリ}行者留^ヘ意^ヲ先彼極樂中^ニ有^ニ九品差別^ヲ且說^ニ下品^ヲ云或人具^ニ作^ニ十惡五逆^ヲ臨^ニ終^ニ命時^ニ遇^ニ善知識^ヲ具^ニ三足十念^ヲ即得^ニ往生^ス抄^ニ余淨土中^ニ未^レ生^ニ此等罪人^ヲ又彌陀如來在^ニ三十八願^ニ第十八願云十方衆生至^ニ心信樂^ヲ欲^ニ生^ニ我國^ニ乃至十念^ヲ若不^レ生者^ハ不^レ取^ニ正覺^ヲ云余諸^ニ仏中^ニ未^レ發^ニ如是悲願^ヲ設^ニ仏無^ニ十念願^ヲ土生^ニ五逆者^ハ誰絶^ス望^ス乎設^ニ土無^ニ五逆者^ハ仏在^ニ十念願^ニ盡^ニ係^ニ特哉^ニ是以非^ニ極樂^ニ者何欣^ニ淨土^ニ非^ニ本願^ヲ者何生^ニ極樂^ニ夫仏果曠海雖^ニ是一味^ニ因位悲願^ヲ彌陀尚勝^ス一子慈悲雖^ニ實平等^ニ一攝取光明照^ニ念^ヲ仏者非^ニ唯^ニ唯^ニ光接^ニ取^ニ亦忝^ニ與聖衆常來摩頭^ヲ平愛知我等厚^ニ結緣^ヲ於彌陀^ニ彌陀悲願深^ニ於我等^ニ靜思^ニ往昔結緣^ノ之厚^ヲ心念^ニ有^ニ特情^ヲ思^ニ大悲誓願^ノ之深^ヲ淚連^ニ不^レ留^ニ實^ニ四十八大願^ヲ併^ニ爲^ニ衆生^ノ僧祇劫苦行偏^ニ爲^ニ我等^ノ何^ニ彌陀^ノ發^ニ難^ニ難^ニ之願^ヲ引^ニ接^ス我等^ハ何^ニ我等^ハ遇^ニ難^ニ遇^ニ之願^ヲ不^レ念^ニ彌

80

80

95

95

90

90

100

100

陀^ニ速^ニ抛^ニ三^ニ万^ニ事^ニ一^ニ心^ニ称^ニ念^ニ悲^ニ願^ニ是^ニ深^ニ引^ニ接^ニ何^ニ疑^ニ抑^ニ

一^ニ生^ニ終^ニ有^ニ限^ニ長^ニ別^ニ此^ニ界^ニ一^ニ時^ニ想^ニ像^ニ弥^ニ陀^ニ如^ニ来^ニ紫^ニ

105 磨^ニ黄^ニ金^ニ之^ニ粧^ニ嚴^ニ与^ニ聖^ニ衆^ニ俱^ニ来^ニ黄^ニ金^ニ色^ニ映^ニ徹^ニ蒼^ニ

天^ニ皆^ニ黄^ニ白^ニ毫^ニ光^ニ赫^ニ奕^ニ国^ニ土^ニ普^ニ明^ニ始^ニ見^ニ此^ニ事^ニ歎^ニ

喜^ニ淚^ニ幾^ニ許^ニ南^ニ無^ニ西^ニ方^ニ極^ニ樂^ニ化^ニ主^ニ阿^ニ弥^ニ陀^ニ仏^ニ本^ニ

願^ニ不^ニ誤^ニ必^ニ垂^ニ引^ニ撰^ニ南^ニ無^ニ九^ニ品^ニ蓮^ニ台^ニ清^ニ淨^ニ大^ニ海^ニ

衆^ニ与^ニ如^ニ来^ニ共^ニ定^ニ爲^ニ来^ニ迎^ニ仍^ニ各^ニ凝^ニ決^ニ定^ニ往^ニ生^ニ想^ニ

110 讚^ニ嘆^ニ本^ニ願^ニ礼^ニ三^ニ拜^ニ弥^ニ陀^ニ仏^ニ矣^ニ歌^ニ頌^ニ曰^ニ

其^ニ仏^ニ本^ニ願^ニ力^ニ聞^ニ名^ニ欲^ニ往^ニ生^ニ皆^ニ悉^ニ致^ニ彼^ニ国^ニ自^ニ致^ニ不^ニ退^ニ転^ニ

願^ニ我^ニ臨^ニ欲^ニ命^ニ終^ニ時^ニ尽^ニ除^ニ一^ニ切^ニ諸^ニ障^ニ碍^ニ

面^ニ見^ニ彼^ニ仏^ニ阿^ニ弥^ニ陀^ニ即^ニ得^ニ往^ニ生^ニ安^ニ樂^ニ国^ニ

願^ニ共^ニ諸^ニ衆^ニ生^ニ往^ニ生^ニ安^ニ樂^ニ国^ニ

115 南^ニ無^ニ西^ニ方^ニ極^ニ樂^ニ化^ニ主^ニ阿^ニ弥^ニ陀^ニ仏^ニ

第^ニ五^ニ讚^ニ嘆^ニ極^ニ樂^ニ者^ニ前^ニ明^ニ三^ニ聖^ニ衆^ニ来^ニ迎^ニ次^ニ長^ニ別^ニ娑^ニ

婆^ニ初^ニ生^ニ極^ニ樂^ニ其^ニ時^ニ想^ニ像^ニ瑠^ニ璃^ニ地^ニ宝^ニ樹^ニ行^ニ烈^ニ影^ニ

光^ニ赫^ニ奕^ニ七^ニ宝^ニ地^ニ蓮^ニ花^ニ開^ニ敷^ニ馨^ニ香^ニ芬^ニ烈^ニ樹^ニ下^ニ天^ニ

人^ニ聖^ニ衆^ニ遊^ニ光^ニ映^ニ花^ニ色^ニ池^ニ畔^ニ鳬^ニ鷹^ニ鸞^ニ鷺^ニ轉^ニ聲^ニ

120 和^ニ浪^ニ音^ニ又^ニ宮^ニ殿^ニ万^ニ樓^ニ閣^ニ重^ニ鳳^ニ薨^ニ連^ニ黄^ニ金^ニ

鷲^ニ瓦^ニ並^ニ瑠^ニ璃^ニ宝^ニ幢^ニ照^ニ地^ニ幡^ニ蓋^ニ翻^ニ天^ニ山^ニ水^ニ影^ニ暈^ニ

疑^ニ頗^ニ梨^ニ之^ニ壁^ニ一^ニ画^ニ花^ニ幢^ニ像^ニ写^ニ誤^ニ瑠^ニ璃^ニ之^ニ枢^ニ花^ニ上^ニ三^ニ

珠^ニ簾^ニ環^ニ珞^ニ垂^ニ露^ニ隨^ニ風^ニ乱^ニ軒^ニ排^ニ金^ニ屏^ニ異^ニ香^ニ先^ニ

薰^ニ沈^ニ檀^ニ交^ニ芳^ニ台^ニ布^ニ三^ニ音^ニ開^ニ忍^ニ辱^ニ之^ニ宝^ニ衣^ニ一^ニ帳^ニ垂^ニ三^ニ古^ニ

125 求^ニ解^ニ脫^ニ之^ニ環^ニ珞^ニ又^ニ並^ニ三^ニ宝^ニ座^ニ又^ニ重^ニ三^ニ宝^ニ衣^ニ莊^ニ嚴^ニ鏤^ニ

七^ニ宝^ニ光^ニ耀^ニ瑩^ニ鸞^ニ鐘^ニ一^ニ篇^ニ笛^ニ琴^ニ笙^ニ篳^ニ篥^ニ奏^ニ樂^ニ於^ニ雲^ニ

上^ニ琵琶^ニ鏡^ニ銅^ニ鑲^ニ鎗^ニ曲^ニ於^ニ陛^ニ下^ニ苦^ニ無^ニ常^ニ音^ニ大^ニ悲^ニ之^ニ

淚^ニ先^ニ落^ニ空^ニ非^ニ我^ニ調^ニ実^ニ相^ニ之^ニ理^ニ漸^ニ顯^ニ加^ニ之^ニ徐^ニ步^ニ瑠^ニ璃^ニ

之^ニ地^ニ金^ニ繩^ニ界^ニ道^ニ漸^ニ過^ニ栴^ニ檀^ニ之^ニ林^ニ落^ニ花^ニ失^ニ路^ニ行^ニ三^ニ功^ニ

130 德^ニ池^ニ浜^ニ波^ニ唱^ニ苦^ニ空^ニ至^ニ三^ニ樂^ニ音^ニ樹^ニ下^ニ風^ニ調^ニ常^ニ樂^ニ從^ニ

宮^ニ殿^ニ至^ニ三^ニ宮^ニ殿^ニ從^ニ林^ニ池^ニ至^ニ林^ニ地^ニ有^ニ說^ニ法^ニ集^ニ會^ニ之^ニ

處^ニ有^ニ坐^ニ禪^ニ入^ニ定^ニ之^ニ處^ニ有^ニ妓^ニ樂^ニ歌^ニ詠^ニ之^ニ處^ニ有^ニ

有^ニ三^ニ神^ニ道^ニ遊^ニ戲^ニ之^ニ處^ニ宮^ニ殿^ニ樓^ニ閣^ニ過^ニ不^ニレ^ニ尽^ニ界^ニ道^ニ

林^ニ池^ニ行^ニ無^ニ際^ニ実^ニ淨^ニ土^ニ莊^ニ嚴^ニ見^ニ長^ニ今^ニ哉^ニ心^ニ猶^ニ

135 駐^ニ者^ニ黄^ニ金^ニ樹^ニ林^ニ之^ニ暮^ニ色^ニ淚^ニ不^ニレ^ニ留^ニ者^ニ上^ニ品^ニ蓮^ニ台^ニ之^ニ

曉^ニ樂^ニ凡^ニ見^ニ色^ニ聞^ニ聲^ニ皆^ニ見^ニ仏^ニ聞^ニ法^ニ之^ニ因^ニ緣^ニ聞^ニ香^ニ掌^ニ

味是発心修行之方便也如レ是経歴遂詣ニ大宝

宮殿ニ始拜ニ弥陀如来ニ妙覺高貴跡殊珍仏果円

満想是新面輪端正秋月出雲白毫赫奕春

日添青光青蓮毗鮮現慈悲相ニ丹菓霄嚴含ニ

憂敬相ニ凡厥一ニ相海鏡ニ金山王跡ニ莫レ不ニ無量

光明照ニ十方世界ニ尊相蕩々威徳巍々聖衆星

烈讚ニ満月之尊容諸天雲集奏ニ微妙之音衆一

昔纔ニ伝ニ聞弥陀如来名号今親拜ニ見八万四千

相好ニ豈ニ図ニ空床独念仏夜今烈ニ衆会ニ忽預ニ

巨益ニ矣加之往ニ返遊行ニ十方世界ニ初成道仏請ニ

転法輪ニ入涅槃仏請ニ久住世ニ得ニ益預レ記亦復

如レ是仍各住ニ極大歡喜心ニ讚ニ嘆極樂ニ礼ニ拜弥

陀ニ矣歌頌曰

觀彼世界相 勝過三界道 究竟如虛空 廣大無邊際

面善円淨如満月 威光猶如千日月 故我頂礼弥陀尊

声如天鼓俱翹羅 願共諸衆生往生安樂国

南無西方極樂化主阿弥陀仏

155 第六因円果満者前明ニ自行成就ニ往ニ生極樂ニ次

明ニ利他円満ニ証ニ得ニ菩提ニ謂ニ奉ニ仕ニ弥陀ニ証ニ不退位ニ

請ニ仏加被ニ先來ニ此界ニ導ニ結縁者ニ訪ニ無縁者ニ或為ニ

慈念鞠育之父母ニ或為ニ至孝鐘愛之男女ニ或

為ニ春風秋月之良友ニ或為ニ飛花落葉之同行ニ

160 断金契深芝蘭語ニ芳然昔在ニ娑婆ニ報謝尚

難今生ニ淨土ニ済度ニ何煩ニ夫棹ニ弘誓船ニ普渡ニ四

生波浪ニ脂ニ慈悲車ニ同越ニ五道之險阻ニ况大智

翼者遙翔ニ法性之空ニ大悲之羽者鎮ニ生死

165 之泥ニ如レ是大悲般若常所ニ輔翼ニ十地究竟万

行円満ニ等覺ニ夢一覺ニ彼岸ニ無所レ不レ至ニ是則

本覺如来ニ四智鏡明ニ三身月円ニ抑此等大事

是誰力乎只是由ニ弥陀願力ニ往ニ生極樂ニ之广大

恩徳也仍各發ニ深固信心ニ讚ニ嘆因果功徳ニ礼ニ拜

弥陀如来ニ矣歌頌曰

170 百情輪廻生六道 尚如車輪無始終

或為父母為男女 生々世々本有恩

三相祇耶大劫中 具修百千諸苦行

功德圓滿遍法界 十地究竟証三身

願共諸衆生往生安樂國

175

南無西方極樂化主阿彌陀仏

第七廻向功德者若人修善根不_レ用_二廻向_一其

善微小設雖_二小善_一廻向法界衆生即成_二無辺_一

功德如_二小雲遍_一大虛設雖_二一善_一廻向菩提涅槃_一

亦成_二無尽功德_一如_二一雨降_一大海廻向功德誠以莫

180

大哉空含_二万像_一海納_二百川_一淨土之業爰_二以可_一

為_二足_一抑願極樂化主彌陀仏九品蓮台清淨

大海衆大恩經主釈迦尊十方護念諸善逝

並_二青蓮毗_一知_二見弟子丹誠_一依_二一坐講演_一成_二

就_二二世大願_一謂生死有_レ終今生為_二穢土之終_一

185

菩提有_レ始後世為_二淨土之始_一凡依_二此七門講演_一

功德_二往_一生彼九品蓮台_二仍各五鉢投_レ地礼_二拜

弥陀如来一矣歌頌曰

依此諸功德 願於命終時 得見彌陀仏 無辺功德身

我及余信者 即見彼仏已 願得無垢眼 經無上菩提

190

願共諸衆生往生安樂國

南無西方極樂化主阿彌陀仏

夫往生講演七門大旨大略如_レ此抑我等從_二無

始_二以來_一流_二転_一生死_二干今_一不_レ知_二出離_一方法_二過去

無量諸仏利益_二已漏_一現在十方諸仏教化_二未_一

195

預哀_二哉_一猶為_二常没_一凡夫_二可_レ恥_一々々可_レ悲_一々々

幸今遇_二釈尊之遺教_一勸_二修_一往生極樂之業_一

出離要道何事如_レ之是豈非_二大師釈尊之_一

廣大恩德_二乎依_レ之今日結衆各_二以至誠心_一礼_二

拜讚嘆 釈迦大師_二彌得_一成_二就_一往生淨土之

200

業一矣歌頌曰

敬礼天人大覺尊 恒沙福智皆圓滿

因因果滿成正覺 住壽凝然無去來

南無大恩教主釈迦尊

願以此功德普及於一切我等與衆生皆共成仏道

南無自他法界平等利益

往生講私記

南都東大寺 沙門永觀尊 願共結緣者 往生安樂國
於弥陀仏前 講説私記文 及十方國中 同以為弘通

(包紙)

湯沢勘解由様

古筆了 括カ

永觀律師卷極

東山禪林寺永觀堂開山永觀律師真筆

往生講一卷

古筆了雪極札

貳百九行有名

朝倉茂入極札

一

東山禪林寺開基永觀律師

往生講
次神分
奥まで令申

印

永觀堂開山永觀律師卷物

朝倉茂入極

東山永觀堂開基永觀筆一卷

次神分

印

永觀律師往生講

江戸

古筆了雪極

東山禪林寺是空和尚添狀

永觀律師卷物 往生講

永觀律師 天永二年癸卯寂

寛政十年に六百八十八年に成

証

印

一 永觀律師真蹟

往生講一卷

貳百九行 有名

古筆了雪極札

朝倉茂入極札

右類筆甚稀數年來珍藏

有之候得共今般依各別御所望

相讓候永御秘藏所希也

明治十六年癸未七月

畑 柳 坪 印

田中忠次郎殿